

第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

2-①

施策

くらしき文化, 芸術活動を振興する

担当部局

文化産業局, 教育委員会, 市長公室



【豊か】めざますまの姿 生活の中に個性的で魅力的な文化が息づいている

市の基本方針

- 子どもから高齢者まですべての市民に、音楽・演劇・舞踊・美術などさまざまな分野において、優れた文化芸術にふれる機会の提供に努めます。
- 市民が身近に文化活動に参加・発表することのできる環境づくりを進めるとともに、さまざまな文化芸術団体相互間の交流の機会を提供します。
- 文化芸術に関する情報を蓄積し、ホームページなどでわかりやすく、タイムリーに発信できる環境を整備するとともに、個性的で多様な「くらしき文化」を国内外へ向けて積極的に発信します。
- 鑑賞, 発表, 創作, 練習など, 市民の文化芸術活動を支える場となる本市の文化施設の機能・設備を充実させ, 利用しやすい施設運営に努めます。

数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
生活の中で文化的活動(鑑賞と実践のどちらでも可)を行っている人の割合	↑	市民アンケート調査で「生活の中で文化的活動(鑑賞と実践のどちらでも可)をおこなっていますか。」という設問に対して、『よくおこなっている』『ときどきおこなっている』と回答した人の割合。
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は, 基準年に比べ, 7.5ポイント下がり, 前年度に比べ, 1.3ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P24】</p> <p>(Ⅱ) 年代別では, 全年代を通して60歳代が最も低く, 20歳代が最も高かった。</p> <p>(Ⅲ) 前年度と比べ実績値が減少しているが, 20歳代以下で実績値が高いのは, 子どもの文化芸術活動へ触れる機会の提供により, 若い世代の文化的活動への関心が高まっているものと考えられる。</p>

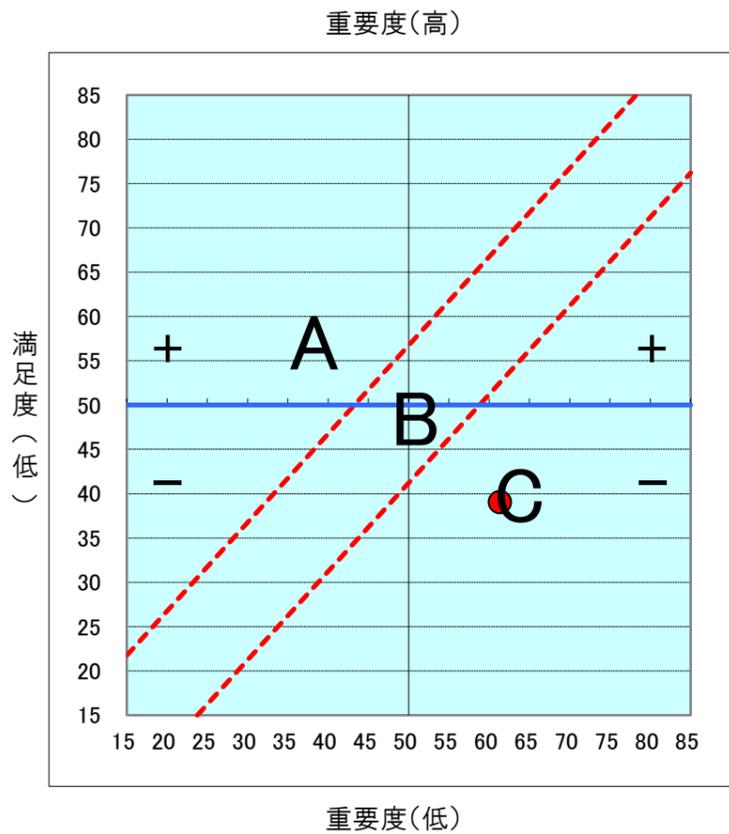
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
文化施設の利用者数(人/年度)	↑	倉敷市民会館, 芸文館, 児島文化センター, 玉島文化センター, マービーふれあいセンターの利用者総数
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は, 基準年に比べ, 16,772人減り, 前年度に比べ, 87,936人減った。</p> <p>(Ⅱ) 施設別の前年比は芸文館(△40,933人), 倉敷市民会館(+23,030人), 児島文化センター(△1,696人), 玉島文化センター(△6,159人), マービーふれあいセンター(△62,178人)となっている。</p> <p>(Ⅲ) 前年度と比べ実績値が減少しているのは, 改修工事のために, 平成30年4月2日から7月31日の間芸文館を休館したことと, 平成30年7月豪雨でマービーふれあいセンターが被災し, 平成30年7月7日から休館していることが考えられる。</p>

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
市内の歴史・文化的イベントが市のイメージアップに役立っていると思う人の割合	↑	市民アンケート調査で「市内の歴史・文化的イベントが, 市のイメージアップに役立っていると思いますか。」という設問に対して、『役立っている』『どちらかというと役立っている』と回答した人の割合。
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は, 基準年に比べ, 0.7ポイント下がり, 前年度に比べ, 1.3ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P25】</p> <p>(Ⅱ) 年代別では, 60歳代の前年度比が他の年代と比べて最も高く, 7.3ポイント上がっている。</p> <p>(Ⅲ) 平成21年度の基準値以降, ほぼ横ばいである。歴史・文化的イベントの国内外への発信が効果的に行えていないことが原因と思われる。</p>

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度 決算額 (千円)
	展覧会事業	(Ⅰ) 優れた美術作品を鑑賞する機会を広く市民に提供することにより、市民の美術に関する知識及び教養の向上に資することを目的に実施した。 (Ⅱ) 「くらしき物語 倉敷・児島・玉島 一郷土の名宝と作家たち」など3回の特別展と4回のコレクション展を開催した。(総観覧者数25,923人) (Ⅲ) より多くの市民に鑑賞していただけるよう企画内容を検討し、広報に力を入れ、継続して実施する。	8,629
	美術作品収集活動事業	(Ⅰ) 郷土作家等の作品を収集することで、市民共通の財産である貴重な美術作品を次世代に伝えていくことを目的に実施した。 (Ⅱ) 郷土ゆかりの斎藤真一や岡野耕三ら19作家27件(すべて寄贈)を収集した。沖塩明樹や塩津誠一は初めて収蔵する作家で、油彩画、陶芸など様々なジャンルの作品により、コレクションの充実につながった。 (Ⅲ) 郷土作家の体系的なコレクションづくりを目指して作品調査を行い、継続して実施する。	378
	美術館教育普及事業	(Ⅰ) 多くの市民に美術に親しんでもらうため、各種実技講座やワークショップをはじめとする制作体験やギャラリートークなどの理論学習を行う機会を提供し、美術はもとより広く芸術の普及に努めることを目的に実施した。 (Ⅱ) 初心者対象の講座を中心に実技講座を7講座実施したほか、「絵をかいて音を鳴らして遊ぼう！」などのワークショップや、美術教養講座などを開催した。(参加総数5,689人) (Ⅲ) 開催中の展覧会の内容に沿ったテーマでの講演会や身近な素材でのワークショップなど、市民の参加意欲が高まるような内容の企画となるよう、継続して実施する。	2,879
	倉敷市文化章表彰事業	(Ⅰ) 文化の向上発展に関して功績があった者に対し、その功績を称え、表彰することを目的に実施した。 (Ⅱ) 文化の向上発展に関して功績があった者(1人)に対し、文化章を贈呈した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	717
	文化活動支援事業	(Ⅰ) 市民の文化芸術活動を支援し、文化芸術の振興を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 市民茶会、市民民謡まつり、ジュニア伝統芸能祭などの倉敷市文化連盟の活動(入場者約8,000人)に対する支援をはじめ、市民参加による創作舞台(入場者1,277人)、吉備真備公献茶会(来場者1,206人)など市民の文化活動を支援した。また、学区文化祭(延べ24学区4,171人参加)の活動を支援した。 (Ⅲ) 継続して実施する方向であるが、各支援のあり方について調査研究し、改善を行う。	22,274
	倉敷っ子美術展事業	(Ⅰ) 次代を担う子どもたちの豊かな創造力と情操を養い、造形活動を支援するとともに、子どもたちの造形活動に対する市民の理解と認識を深めることを目的に実施した。 (Ⅱ) 市内の小中学生の作品を展示する第33回倉敷っ子美術展(平成31年2月1日～17日)を開催した。(出品点数10,634点、観覧者数8,032人) (Ⅲ) さらに多くの保護者や一般市民に鑑賞してもらえるよう広報に力を入れ、継続して実施する。	493
公創	(公財)倉敷市文化振興財団運営事業	(Ⅰ) 市民文化を振興するとともに、くらしき文化を全国に発信することを目的に、文化芸術の実施団体である(公財)倉敷市文化振興財団の運営する事業を補助した。 (Ⅱ) 倉敷音楽祭、大山名人杯倉敷藤花戦、大山名人杯争奪全国小学生倉敷王将戦、くらしき吉備真備杯子ども棋聖戦、春の院展・倉敷展など47事業を開催した。(入場者数及び参加者数約56,000人) (Ⅲ) 継続して実施していくが、さらに市民文化・地域文化を振興し、また、全国発信につながるよう財団と事業内容を検討する。	234,231
	美術館広報活動事業	(Ⅰ) より多くの市民に美術館の展覧会や所蔵品についての情報を提供することを目的に実施した。 (Ⅱ) 展覧会や講演会、ワークショップなどの情報を掲載した催しもの案内を月1回作成・配布するほか、ホームページで情報提供した。 (Ⅲ) 展覧会観覧者数の増加につながるよう、展覧会内容を広く周知できる効果的な方法を検討しながら継続して実施する。	166
都	文化施設管理運営事業	(Ⅰ) 市民の文化活動を支える場である文化施設の機能、設備を充実させ、利用しやすい施設運営を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 指定管理者制度により、文化施設(倉敷市民会館、芸文館、児島文化センター、玉島文化センター、マービーふれあいセンター、文化交流会館、大山名人記念館)の管理運営を行った。倉敷市民会館の舞台諸幕更新修繕を行った。芸文館にESCO事業を導入し、機械設備の更新、省エネルギーによる経費削減を図った。 (Ⅲ) 老朽化した施設については、計画的な修繕を継続して実施する。	813,626

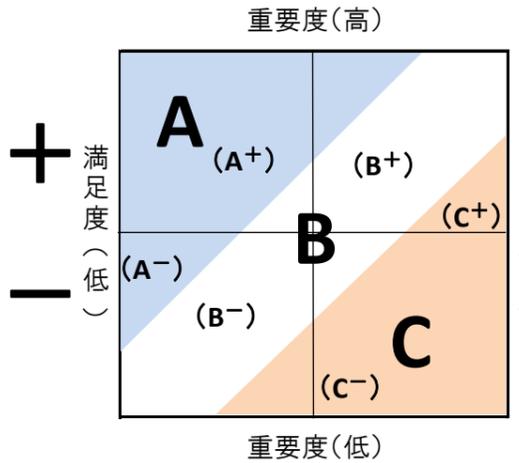
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C ⁻	39.02	61.35

●重要度に見合う以上の満足度が得られている(C)
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A:重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B:重要度に見合った満足度が得られている領域
 C:重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +:重要度が平均値より高い部分
 -:重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺:重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

課題

- 市民誰もが文化に親しみ生活を充実させることができる社会を形成するためには、今から次世代を担う青少年を対象とした事業を実施することが大切である。成果が出るまで時間がかかるが地道な努力が必要である。
- 文化的イベントを市のイメージアップに結びつけるため、イベント内容の見直しを行うとともに、効果的なPRを行う必要がある。
- 文化施設については老朽化しているものもあり、計画的に改修を行っていく必要がある。
- 美術館利用者が全体的に減少傾向にある。
- 展覧会などの事業情報が周知されていない。
- 優れた作品を収蔵し、体系的なコレクションを構築するための予算の確保が難しい。
- 美術館は、開館から35年以上、建物の建築から約60年が経過し、施設の老朽化が進んでいる。

今後の取組み方針

- 市民が安全で快適に施設を利用できるよう、耐震化対策を含め計画的に修繕を行う。
- 本市における文化振興の実践主体であり、また地域の文化振興拠点である文化施設の指定管理者である文化振興財団の事業について、舞台芸術にとらわれない活動の支援や提供、市民参加型や生涯学習的な性格をもった事業の展開、また市民協働による事業の企画を実施するよう協議する。
- 文化芸術イベントの各種イベントと連携したPRなど、文化芸術に関する情報発信の仕組みづくりを進める。
- 文化施設の長寿命化につながるように長期的な観点から計画的な改修を行うとともに、予約システムなどの導入を進める。
- 高梁川流域作家の作品調査・研究をすすめる、流域内の施設と連携するなど、市民の関心やニーズを踏まえ展覧会の企画・開催に努める。講座、ワークショップ、ギャラリートークへの参加者を増やすために魅力あるプログラム作りに努める。
- 広報媒体の多様化を図るとともに、学校関係に働きかけるなど積極的なPR活動に努める。
- 美術作品の寄贈も積極的に働きかけていく。